

心房細動は全ての心臓血管イベントの増大とも関連

これまでの研究で、心房細動は全死因死亡や脳卒中リスクを増大することが示されているが、脳卒中に限らず全ての心臓血管イベントのリスクを増大するかについては不明である。本研究では、心房細動と重大心臓血管イベント、脳卒中、全死因死亡、心臓血管死などのリスクとの関連について、系統的レビューおよびメタ解析を実施し、検討した。系統的レビューで特定された 104 のコホート試験、被験者 968 万 6,513 例（うち心房細動患者 58 万 7,867 例）を対象にメタ解析を行った。その結果、心房細動は全死因死亡（相対リスク：1.46）、心臓血管死（同：2.03）、重大心臓血管イベント（同：1.96）、脳卒中（同：2.42）、虚血性脳卒中（同：2.33）、心臓突然死（同：1.88）、心不全（同：4.99）のリスク増大と有意に関連していた。一方、出血性脳卒中（相対リスク：2.00）には有意な増大はみられなかった。調べた転帰のうち、絶対リスクが最も高かったのは心不全であった。また、これらの転帰と心房細動との関連性は、サブグループ解析や感度解析でもほとんど変わらなかった。

したがって、心房細動は全ての心臓血管リスクの増大と関連することが明らかとなり、心房細動患者では、脳卒中に限らず、より広い範囲の転帰を減らすことを目的とした介入が必要であることが示唆された。

出典：British Medical Journal(Clinical research ed.). 2016; 354: i4482